

令和 6 年度

「運営に関する計画・自己評価（最終評価）」
及び「学校関係者評価報告書」

大阪市立桜宮幼稚園

令和 7 年 3 月

大阪市立桜宮幼稚園 令和6年度 運営に関する計画・自己評価 (総括シート)

1 幼稚園運営の中期目標

現状と課題

- いつ起こるか分からない地震や津波、火災などを想定した防災訓練に加えて、昨今の社会情勢から不審者等による事件発生時の対応についても、訓練の必要性を感じ、取り組んでいる。
- 感染症対策の制限がなくなりつつあるので、地域や保護者と連携した避難訓練や防犯訓練に少しずつ、取り組んでいく。また、自転車の事故や子どもが巻き込まれる交通事故などが増えてきている。子ども自身が交通ルールを守って行動できるような指導に努める。
- 安全面に配慮し、廊下の移動は歩いて行うことや、階段の安全な上り下りの仕方などに気を付けられるような指導を行う。また、全ての子どもたちに分かりやすい伝え方を工夫し、子どもが幼稚園に安心して登園できるように努める。
- 集団生活を通して、友達の良さを知ったり、自分の良さを知ってもらったりして共に学びあえるようにしたい。そのために、全教職員で幼児の実態を共有し、個にあった支援方法の工夫に努める。
- 生涯にわたる人格形成の基礎となる幼児期に様々な経験をし、豊かな心情を育み、自ら考えたり、工夫したりし、友達と共に遊び込みながら育ち合えるように、環境構成や保育を工夫し、教育内容の充実に努める。
- 登園時間が遅くなったり朝食を食べずに登園したりして十分な活動ができない子どもがいる。健康に園生活を送るためにも基本的な生活習慣の獲得が大切である。保護者啓発をするとともに、子どもが自分自身の体に関心がもてるような指導を発達に応じて行う。
- 昨年度移動させた絵本コーナーを活用して、いろいろな絵本に興味をもてるように環境を見直していく。また、保護者と一緒に絵本を楽しめる絵本タイムを実施し、おはなしの楽しさを感じ、親しめるようにしていく。
- IT機器からの情報が多い昨今、実体験を通して表現する楽しさを味わう幼児を育む。
- 近隣の保育園、幼稚園、小学校との連携を深め、互いの教育理解や教育活動の充実に努める。

中期目標**【安全・安心な教育の推進】**

- 令和6年度末の保護者アンケートの次の項目において、肯定的な回答をする割合を80%以上にする。
 - ・「幼稚園は子どもが園内で安全に過ごせる環境や援助の在り方を工夫している」
- 令和6年度末の保護者アンケートの次の項目において、肯定的な回答をする割合を80%以上にする。
 - ・「幼稚園はお互いの良さを認め合える保育をしている」
 - ・「子どもは友達と一緒に遊ぶことを楽しんでいますか」

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和6年度末の保護者アンケートの次の項目において、肯定的な回答をする割合を80%以上にする。
 - ・「子どもはかいたりつくったりして遊ぶことを通して、表現する楽しさを味わっていますか」
- 令和6年度末の保護者アンケートの次の項目において、肯定的な回答をする割合を80%以上にする。
 - ・「幼稚園は、近隣の小学校・保育園などと交流し連携を深められていますか」
- 令和6年度末の保護者アンケートの次の項目において、肯定的な回答をする割合を80%以上にする。
 - ・「子どもは基本的な生活習慣が身に付いてきていますか」
 - ・「幼稚園は子どもの実態に応じた保健指導を実施している」

【学びを支える教育環境の充実】

- 令和6年度の保護者アンケートの次の各項目において肯定的な回答をする割合を80%以上にする。
 - ・「子どもは絵本やおはなしに親しむようになりましたか」
 - ・「幼稚園は絵本やおはなしに親しむ環境や指導方法を工夫していますか」

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

学校園の年度目標

- ① 令和6年度末の保護者アンケートの次の項目において、肯定的な回答をする割合を80%以上にする。
 - ・「幼稚園は子どもが園内で安全に過ごせる環境や援助の在り方を工夫している」
- ② 令和6年度末の保護者アンケートの次の項目において、肯定的な回答をする割合を80%以上にする。
 - ・「幼稚園はお互いの良さを認め合える保育をしている」
 - ・「子どもは友達と一緒に遊ぶことを楽しんでいますか」

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

学校園の年度目標

- ① 令和6年度末の保護者アンケートの次の項目において、肯定的な回答をする割合を80%以上にする。
 - ・「子どもはかいたりつくったりして遊ぶことを通して、表現する楽しさを味わっていますか」
- ② 令和6年度末の保護者アンケートの次の項目において、肯定的な回答をする割合を80%以上にする。
 - ・「幼稚園は、近隣の小学校・保育園などと交流し連携を深められていますか」
- ③ 令和6年度末の保護者アンケートの次の項目において、肯定的な回答をする割合を80%以上にする。
 - ・「子どもは基本的生活習慣が身に付いてきていますか」
 - ・「幼稚園は子どもの実態に応じた保健指導を実施している」

【学びを支える教育環境の充実】

学校園の年度目標

- ① 令和6年度末の保護者アンケートの次の各項目において肯定的な回答をする割合を80%以上にする。
 - ・「子どもは絵本やおはなしに親しむようになりましたか」
 - ・「幼稚園は絵本やおはなしに親しむ環境や指導方法を工夫している」

3 本年度の自己評価結果の総括

- ・安全教育について、安全計画に基づき計画的に避難訓練や防犯訓練を実施した。また、幼児の実態に応じて、安全指導を実施した。新たな取組として、避難訓練後に、絵本や紙芝居を活用したり、防災頭巾を導入したりして、幼児の自分の身を守る意識が高まった。保護者アンケート「幼稚園は子どもが園内で安全に過ごせる環境や援助の在り方を工夫している」の項目において、肯定的な回答は100%であった。
- ・第2ブロック研究部の研究保育を受け、研究主題「自分の思いを表現する楽しさを味わう幼児を育てる～かいたり、つくったりする中で～」のもと、保育を実施した。また、年間を通して、幼児がかいたり、つくったりする中で、表現することを楽しむ姿を記録に取り、その姿につながる「教師の教育的意図をもった働きかけ」や「環境」について考察した。「こども展覧会」では、保護者アンケートで「自分で一生懸命考えてつくりあげたことが伝わってきた」「子どもの想像力が豊かで、どの作品も素晴らしかった」など、幼児の思いが表現されていたことが伝わっていた。保護者アンケート「子どもはかいたりつくったりして遊ぶことを通して、表現する楽しさを味わっていますか」の項目において、肯定的な回答は100%であった。
- ・保育幼児教育センターの依頼を受け、「保幼小連携・接続推進事業」の2年研究、1年目で、近隣の保育所、小学校と連携し、年間計画に基づき交流を重ねた。幼児にとって、小学校の施設で交流することで、小学校への期待が高まり、就学後、保育所の友達と再会することで、安心して新しい環境で過ごすことができる。また、教師は互いの教育内容を知り、保育内容を見直す機会となった。2年目は、小学校への学びにつなげられるように、研究を深めたい。保護者アンケート「幼稚園は、近隣の小学校・保育園などと交流し連携を深められていますか」の項目において、肯定的な回答は100%であった。

大阪市立桜宮幼稚園 令和6年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【安全・安心な教育の推進】 幼稚園の年度目標 ① 令和6年度末の保護者アンケートの次の項目において、肯定的な回答をする割合を80%以上にする。 ・「幼稚園は子どもが園内で安全に過ごせる環境や援助の在り方を工夫している」 ② 令和6年度末の保護者アンケートの次の項目において、肯定的な回答をする割合を80%以上にする。 ・「幼稚園はお互いの良さを認め合える保育をしている」 ・「子どもは友達と一緒に遊ぶことを楽しんでいますか」	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向1 安心安全な教育環境の実現】 子どもが安全に過ごせる環境や援助の在り方を工夫する。	A
指標 ・月1回以上、非常時の行動の仕方や安全な遊具や用具の使い方などについて指導する。 ・年に2回以上、園児と保護者に安全指導を実施し、保護者にも啓発をする。 ・全教職員で園内の環境を見直す機会を月1回以上もつ。	
取組内容②【基本的な方向2 豊かな心の育成】 幼児一人一人を大切に「共に学び」「共に育ち」「共に生きる」教育を推進する。	A
指標 ・園内委員会を年に3回以上実施し、個々の子どもの実態や興味・関心を共有し個に合った支援の仕方を工夫する。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
○保護者アンケート ① 「幼稚園は子どもが園内で安全に過ごせる環境や援助の在り方を工夫している」の項目において、肯定的な回答は100%であった。 ② 「幼稚園はお互いの良さを認め合える保育をしている」の項目において、肯定的な回答は100%であった。 「子どもは友達と一緒に遊ぶことを楽しんでいますか」の項目において、肯定的な回答は100%であった。
取組内容① ・毎月1回避難訓練を実施した。4月、5月(火災)6月(地震)7月(火災 消防訓練)9月(地震・津波 引き渡し訓練)11月(防犯)12月(火災 未周知)1月(地震)2月(防犯)3月(火災)の避難訓練を行い、自分の身を守ることの大切さや方法を知らせた。 6月…プール指導では教師が劇をして、プールに入るときの約束を視覚的に分かるよう知らせたことで、プール活動中、約束を守ろうとする姿が見られた。 7月…消防訓練 消防協会の方立ち合いのもと、教師全員が消火器を使用して消火訓練を行った。また、防犯訓練では、終業式に教職員で劇をした。保護者も出席していたため夏休みの過ごし方の啓発につながった。

9月…引き渡し訓練 小学6年生と一緒に学校の3階に避難し、保護者に引き渡した。

幼児は回数を重ねるごとに、ベルが鳴ったら教師の元に集まることが身に付いてきた。

11月…展覧会前に、はさみの使い方や保管の仕方などについて、幼児に伝えたり、教職員で共通理解する機会をもった。

12月・1月…避難訓練後に、視覚的に理解できるように絵本を読んだり、被災した教師の実体験を話したりして、具体的に自分で自分の身を守る方法を伝えた。

1月…「母と子の安全教室」に参加した。他園の年長児とその保護者が都島区民センターに集まり、警察の方々から交通安全指導及び防犯指導を受けた。就学に向けて、自分で自分の身を守るという心構えをもつきっかけになった。

3月…火災避難訓練 未周知で実施。

- ・幼児の実態に応じて、安全指導を行った。
- ・月末の保育室降園時に、実施した避難訓練の様子を保護者に伝え啓発し、家庭でも話し合えるよう促した。
- ・新たなチェック表を活用し、月1回全教職員で安全点検を行った。危険な箇所はないか、空調機や扇風機、換気扇などは正常に動いているかなどを点検し、幼児が安全に過ごせるように努めた。
- ・防災頭巾の導入…災害時、自分で頭を守る意識をもつことができるように、毎日幼児が座る椅子に防災頭巾を座布団として使用し、すぐに被ることができるようにした。

取組内容②

- ・4月当初、園内委員会を実施した。個々の幼児の実態を教職員間で共有した。また、一人一人に寄り添った保育を心掛け、保育の中での気づきを、日々、教職員間で伝達し合った。どの教師が関わっても同じ対応をするようにしたことで、幼児が安心して過ごすことができた。
- ・幼児が分かりやすく見通しをもち、安心して過ごせるように、絵カードや標示を活用した。活動の内容や場所を伝えることで、幼児は落ち着いて活動できた。
- ・運動会やこども展覧会などでは、幼児の実態と支援の仕方を何度も話し合い、個々に応じた支援を行い、幼児の実態に合わせて参加することができた。
- ・9月、大阪市教育委員会の巡回指導を受けた。配慮を必要とする幼児の実態から、よりよい支援について助言を受けた。幼稚園の実態から、巡回相談の日数を増やしてもらい、より丁寧な指導を受けた。(12月と1月)
12月と1月に実施した際にも保育に活かせるよう、巡回指導で受けた助言を職員間で共有した。
- ・生活発表会では、個々の実態を全体で話し合い、配慮の必要な幼児も無理なく参加できるような方法や教師の配置を決めた。また、幼児一人一人の個性を生かせるよう、内容を工夫したことで、保護者から好評を得られた。(保護者アンケート参照)

次年度への改善点

- ・幼児が自分自身の身を守れるよう、引き続き、毎月、避難訓練や防犯訓練を実施するとともに、紙芝居を活用し、絵やお話から、災害に応じた自分で自分の身を守る方法を知らせる。
- ・遊具、用具の使い方について、安全指導を繰り返し実施する機会をもち、定着させていく。
- ・園内委員会と位置付け、市教育委員会の巡回相談を年3回受けた。今後も、必要に応じて、専門家からの指導を受けながら、配慮を要する幼児に対する支援を行う。

大阪市立桜宮幼稚園 令和6年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【未来を切り拓く学力・体力の向上】 幼稚園の年度目標 ① 令和6年度末の保護者アンケートの次の項目において、肯定的な回答をする割合を80%以上にする。 ・「子どもはかいたりつくったりして遊ぶことを通して、表現する楽しさを味わっていますか」 ② 令和6年度末の保護者アンケートの次の項目において、肯定的な回答をする割合を80%以上にする。 ・「幼稚園は、近隣の小学校・保育園などと交流し連携を深められていますか」 ③ 令和6年度末の保護者アンケートの次の項目において、肯定的な回答をする割合を80%以上にする。 ・「子どもは基本的生活習慣が身に付いてきていますか」 ・「幼稚園は子どもの実態に応じた保健指導を実施している」	A
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向3 幼児教育の推進と質の向上】 就学前教育カリキュラムを活用し、自分の思いを表現する楽しさを味わう幼児を育む。 指標 ・幼児がかいたりつくったりする中で表現する楽しさを味わっている姿を、記録に取り、月1回、検討会をもつ。 ・各組が、年1回以上園内研究保育を行い、表現する楽しさを味わう幼児を育むための教育的意図をもった働きかけや環境について学び合う機会をもつ。	A
取組内容②【基本的な方向3 幼児教育の推進と質の向上】 近隣の保育園・幼稚園・小学校が連携し、互いの教育理解を深め、小学校教育への移行を円滑にすると共に、幼児教育の質の向上を図る。 指標 ・年間計画を立て、保育園・幼稚園・小学校が、年6回以上交流する機会をもつ。 ・年間計画に沿って、交流前の打ち合わせ、交流後の反省を行い、互いの教育理解や、教育の質の向上につなげる。	A
取組内容③【基本的な方向5 健やかな体の育成】 規則正しい生活が身に付くように、子どもの発達段階に応じた保健指導を行う。 指標 ・丈夫な身体づくりや規則正しい生活習慣が身に付く保健指導を月1回以上行う。 ・学期に2回以上保健指導の内容を保護者に向けて発信し家庭と連携する。	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
○保護者アンケート ① 「子どもはかいたりつくったりして遊ぶことを通して、表現する楽しさを味わっていますか」の項目において、肯定的な回答は100%であった。 ② 「幼稚園は、近隣の小学校・保育園などと交流し連携を深められていますか」の項目において、肯定的な回答は100%であった。 ③ 「子どもは基本的生活習慣が身に付いてきていますか」の項目において、肯定的な回答は96%であった。 「幼稚園は子どもの実態に応じた保健指導を実施している」の項目において、肯定的な回答は100%であった。	

取組内容①

- ・月1回、「幼児が表現することを楽しむ姿」と、その姿につながる「教師の教育的意図をもった働きかけ」や「環境」を記録にとり、教員間で検討したことで、幼児理解や教員間での共通理解につながった。
- ・6月に指導要請、7月に研究保育を行った。
幼児の実態から、感触を楽しむ遊びを中心に実施した。
3歳児…小麦粉粘土や寒天、色水遊びなど、感触を存分に楽しんだことから、安定して遊ぶ姿が見られた。
- 4歳児…小麦粉粘土や紙粘土などの感触遊びを取り入れた。紙粘土は様々な色でイメージが広がるよう、教師が色画用紙からつくった。その際、水やのりの量を何度も調節し、寒天や小麦粉粘土の固さなどについて、教材研究を行った。寒天や小麦粉粘土、紙粘土などでつくった物をショーウインドウのように飾り、より本物に近いイメージで遊べるように、机や棚を使って幼児がつくった物を飾った。幼児は、飾って見てもらえることで、満足感を感じながら遊ぶことを楽しんだ。
- 5歳児…桜小カーニバルに招いてもらった経験から、桜幼カーニバルをしたいと考え、夏祭りに向けて、どのようなお店をつくるか、材料は何を使うかなど試行錯誤しながら意欲的に取り組んだ。夏祭りで、4歳児、3歳児、保護者、未就園児が、お客さんになり遊んでくれたことで満足感を味わったことが、その後、かいたりつくったりする意欲につながっている。
- ・11月「こども展覧会」を実施。
幼児が自分なりに思いを表現した絵や作品を展示した。1学期から様々な素材を手に取りやすいように種類別に用意し、幼児が自らかいたり、つくったりすることを大切に保育してきたことで、自分の思いを伸び伸びと表現することができ、保護者から好評を得た。
- ・月末に各クラスで、幼児がかいたり、つくったりする姿の写真を掲示し、保護者にその様子や教育的意図を知らせた。親子で写真を見ながら、幼児が褒められたり、認められたりしたことで、更にかいたり、つくったりする意欲が高まった。

取組内容②

5月・7月・8月 保幼こ小連携接続研究会

- ・ちどり保育園、桜宮幼稚園、桜宮小学校の教員が集まり、テーマや研究内容について共通理解した。8月は大学教授から指導を受けた。各学校園の特色や取組を理解し、就学に向けて幼児の学びをつなげていくための連携を確認したり、学んだりした。

6月 桜小カーニバル

- ・小学校の縦割り班によるゲームのお店に5歳児が遊びに行った。幼児は、もぐらたたきや、ボーリング、輪投げや宝探しなど、様々な遊びを楽しみ、自分達でもゲームをつくり、PTA夏祭りで桜幼カーニバルをした。自分達が小学校で体験したように、遊び方をお客さんに説明したり見本を見せたりして、幼稚園の友達や保護者に喜んでもらえたことで、満足感や充実感を味わった。
- ・楽しい経験をさせてもらった幼児は、その思いを絵にしたり言葉にしたりしながら手紙を作成し、小学生にお礼の気持ちを伝えた。

6月 ちどり保育園と交流

- ・保育園5歳児と本園の3・4・5歳児が、桜宮幼稚園で一緒に泥遊びを楽しんだ。築山の傾斜を使って水を流したり、泥団子をつくったりして、泥や水の感触を存分に楽しんだ。また、保育園と幼稚園の5歳児が「エイヤーサー」体操をした。
一緒に遊んだ感想を伝え合う時間を持ち、名前を伝え合ったり、楽しかったことを話したりして、再会を楽しみにしていた。

7月 桜宮小学校でプール体験

- ・事前に小学校教諭と打ち合わせを綿密に行い計画案を作成した。幼児の身長から考えて水深を80cmにし、4年生との交流のため、じゃんけん列車や宝探しなど、楽しみながら水に親しめる内容にした。入水するときに支えてもらったり、水中の移動で手をつないでもらったりするなど、安心して遊ぶことができた。

9月 桜宮小学校へ津波の避難訓練（引き渡し訓練）

- ・事前に担当クラス6年生の小学校教諭と打ち合わせを行い計画案を作成した。手をつなぎ、一緒に階段を上がってもらったり、足が疲れてきた子どもを3階まで引き上げながら先導してもらったりした。一人一人手をつないで上がり避難することで、落ち着いて行動できた。

10月 ちどり保育園と交流

- ・運動会後に一緒にリレーをする計画をした。保育者同士、事前に保育案を見ながら自園の子どもの姿を伝え合い、細かく予測しながら計画案を作成した。※近隣で事件発生のため中止

11月 桜宮小学校 学習発表会プレ発表を見学

- ・1・3・5年生の学習発表会のリハーサルを見せてもらった。知っている歌や演奏に、「幼稚園で歌ったことがある歌を小学校で歌えるのはうれしい」「小学生の歌の音がきれい」など、一緒に部分を見つける中にも憧れの気持ちをもった。
- ・桜宮小学校校長先生・教務主任の先生が、「こども展覧会」を参観してくださり、幼児が表現したこと、その思いに耳を傾けてくださった。

11月 ちどり保育園と交流

- ・保育園に遊びに行き、卓球をしたり大きな紙に絵をかいたりした。屋上では、元気いっぱい体を動かし、一緒に遊ぶ楽しさをそれぞれ感じていた。最後には小学校別に集まり、4月にまた再開することを楽しみにしていた。

12月 桜宮小学校5年生と一緒に凧あげ

- ・5年生に手伝ってもらいながら広い校庭で凧あげをした。上手にあがるように補助をしてもらったり、応援しながら並走してもらったりした。走る向きやスタート位置に戻る流れ、スタートするタイミングなど、5年生にリードしてもらうことで安全に楽しく遊べた。

2月 1年生と4歳児の昔遊び交流

1年生が地域の方から教わった昔遊びを、幼稚園児に教えに来てくれた。やって見せてくれたり、手を取って教えてくれたりした。次年度につながる交流になった。

3月 保幼小の教職員が、年間の取組を振り返り、大学教授から助言を受け、次年度の方向性について話し合う予定

取組内容③

- ・毎月の体重測定後に保健指導の時間を設け実施した。

4月：感染予防の基本である手洗いうがいを、新入園児は身に付けられるよう、4歳児・5歳児は再確認の目的で実施した。

5月：自分の健康に興味をもつことができるよう、大便の種類について説明すると共にトイレの使い方を指導した。

6月：5歳児に、自分たちがどのようにして生まれてきたのか、命の大切さを知らせるため、妊娠してる教諭のお腹に実際に触れ、赤ちゃんはお腹の中で育って生まれてくると、皆、お腹の中にいるときから、とても大切に育てられてきたのだということを話した。3歳児はお弁当が始まり、4歳児には歯磨きを再確認してほしいと考え、3歳児・4歳児には、歯磨き指導を実施した。

7月：プライベートパーツは人に容易に見せたり触れせたりしないことを話した。指導後、各クラスでも改めて指導してもらい、ふざけて服を脱ぐ幼児が減少した。

9月：転倒した後に土が付いたまま教師に傷口を見せに来る幼児が多く、運動会の練習が始まる前に、傷口を洗う大切さを話した。

11月：暑さが落ち着き、外遊びが多くなるこの時期、健康な身体づくりのために好き嫌いなく食事をとれるように、食べ物の役割について話した。

11月：手洗い、うがいを疎かにしている幼児が多く見られたため、感染症が流行する前に、手洗い、うがいの指導を手洗いチェッカーを用いて行った。

12月：手や腕で口を抑えることなく咳嗽をしている幼児が見られたため、感染症が流行する

前に咳エチケットの指導を行った。

- 1月：冬休みに「はやね・はやおき・歯磨きカレンダー」を親子で記入できるようにして、生活習慣を確認。推奨時間より睡眠時間は短く、就寝時間が遅い幼児が多かったため、睡眠の絵本を使用し、睡眠の大切さについて話した。
- 2月：廊下を走っている幼児が多く見られ、自分や他人に怪我をさせる可能性があるため、交通安全の紙芝居を利用し、幼稚園の中での安全な過ごし方について話した。
- ・生活習慣の乱れにより遅刻する園児が多い実態から、早起き・早寝・朝ごはんの大切さや、早起きするためのコツを保健だよりに掲載した。また、規則正しい生活習慣の獲得のために啓発活動を行った。
 - ・保健指導実施日の降園連絡時や、月末の保育室帰りの際、指導内容を保護者へ伝えた。
 - ・夏季休業中に、生活習慣を継続できるように、終業式の保護者会で、保健だよりと保健指導時の写真を提示し、再度、早起き・早寝・朝ごはん・歯磨きの大切さや家庭での習慣づけの協力を依頼した。また、家庭と連携できるよう、はみがきカレンダーを作成配布した。

次年度への改善点

- ・次年度は、幼児が今年度の経験を生かして、かいたり、つくったりして、表現することを楽しむことができるように、素材の特性を生かして表現する姿や、遊びの必要性から友達と目的をもって、かいたり、つくったりする姿を記録に取り、より豊かな表現につなげられるようにする。
- ・今年度の取組を基にカリキュラムを作成し、計画的に交流を重ね、幼児期の学びの芽を小学校の学びへとつなげられるようにする。
- ・引き続き、幼児の実態から保健指導の内容を工夫する。

大阪市立桜宮幼稚園 令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標		達成 状況
【学びを支える教育環境の充実】		
幼稚園の年度目標		
① 令和 6 年度の保護者アンケートの次の各項目において肯定的な回答をする割合を 80%以上にする。 <ul style="list-style-type: none"> ・「子どもは絵本やおはなしに親しむようになりましたか」 ・「幼稚園は絵本やおはなしに親しむ環境や指導方法を工夫していますか」 		A
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		進捗 状況
取組内容①【基本的な方向 8 生涯学習の支援】 子どもたちがいろいろなおはなしに親しめるような環境や指導方法を工夫する。		
指標	<ul style="list-style-type: none"> ・絵本貸し出しを月に 2 回以上行い、絵本カードを活用しながら、いろいろなおはなしに親しめるようにする。 ・保護者と子どもと一緒に絵本を楽しむ「おはなしタイム」を学期に 1 回以上行う。 	A
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
○保護者アンケート ① 「子どもは絵本やおはなしに親しむようになりましたか」の項目において、肯定的な回答は 96%であった。 「幼稚園は絵本やおはなしに親しむ環境や指導方法を工夫していますか」の項目において、肯定的な回答は 98%であった。		
取組内容① <ul style="list-style-type: none"> ・月 2 回絵本貸し出しをした。家に持ち帰り、絵本を読むことを楽しみにしている。絵本貸し出しをするようになり、昼食後に絵本を読んでお腹休めをする姿も増えた。また、クラスで絵本を読むときも集中して聞けるようになった。3 歳児は、教師が絵本を読んだり、園のおはなしタイムで保護者と読んだりすることで絵本に親しんだ。 ・おはなしタイムでは、好きな場所で保護者の膝にのせてもらったり、親子でふれ合いながらゆったりと絵本を読んでいる。ゆっくり絵本を読む時間をつくるのが難しい家庭でも、この機会にコミュニケーションをとる時間になっている。 ・4 歳児クラスでは、おはなしタイムに絵本を読んでもらうのではなく、絵本を自分で声に出して読み、保護者に聞いてもらう姿も見られるようになった。お話の世界を楽しむことに加え、文字に関心をもつ機会にもなっている。 		
次年度への改善点		
<ul style="list-style-type: none"> ・「絵本貸し出し」と「おはなしタイム」を継続するとともに、クラスや誕生会などでも、様々なお話にふれる機会をもち、「絵本貸し出し」や「おはなしタイム」につなげる。 ・安心した場で、ゆったりと絵本を楽しめるよう、環境構成を工夫する。 		

令和6年度 学校関係者評価報告書

大阪市立桜宮幼稚園 学校協議会

1 総括についての評価

- ・保護者アンケートの結果では、全ての項目で年度目標を上回る結果を得ることができた。
- ・配慮を要する幼児が複数いる中、教員が一人一人の幼児と真摯に向き合い、丁寧に関わっていることで、幼児がやさしい子どもに育っている。
- ・地域との交流を大切にし、幼児と地域をつなげている。
- ・地域の保幼小が連携し、幼児がスムーズに就学できるように交流している。

2 年度目標ごとの評価

年度目標：【安全・安心な教育の推進】

幼稚園の年度目標

- ③ 令和6年度末の保護者アンケートの次の項目において、肯定的な回答をする割合を80%以上にする。
- ・「幼稚園は子どもが園内で安全に過ごせる環境や援助の在り方を工夫している」
- ④ 令和6年度末の保護者アンケートの次の項目において、肯定的な回答をする割合を80%以上にする。
- ・「幼稚園はお互いの良さを認め合える保育をしている」
 - ・「子どもは友達と一緒に遊ぶことを楽しんでいますか」

○達成状況の評価は、妥当である。

○今年度、防災頭巾を取り入れたり、保護者引き渡し訓練を、小学校と連携して取り組んだりして、非常災害時に備えられている。

○配慮を要する幼児が多く、教員の配置が少ない中、一人一人と丁寧に関わっていることで、幼児のやさしい気持ちが育っていることが、幼稚園行事で幼児と関わるとよく分かる。

年度目標：【未来を切り拓く学力・体力の向上】

幼稚園の年度目標

- ① 令和6年度末の保護者アンケートの次の項目において、肯定的な回答をする割合を80%以上にする。
- ・「子どもはかいたりつくったりして遊ぶことを通して、表現する楽しさを味わっていますか」
- ② 令和6年度末の保護者アンケートの次の項目において、肯定的な回答をする割合を80%以上にする。
- ・「幼稚園は、近隣の小学校・保育園などと交流し連携を深められていますか」
- ③ 令和6年度末の保護者アンケートの次の項目において、肯定的な回答をする割合を80%以上にする。
- ・「子どもは基本的生活習慣が身に付いてきていますか」
 - ・「幼稚園は子どもの実態に応じた保健指導を実施している」

○達成状況の評価は、妥当である。

○就学前教育カリキュラムを活用し、幼児がかいたり、つくったりしたいときに、すぐに取り組める環境を整えたり、教師が幼児の表現を大切に受け止めたりしたことで、「こどもてんらんかい」では、表現することを楽しんでいる様子がよく伝わってきた。

○保幼小連携・推進事業による研究を受け、保育園、小学校との交流を積極的に行っている。小学校とは年間を通して、各学年と関わった。交流が就学時の安心につながる。

○幼児の実態から、生活習慣を整えることを基盤に取り組まれている。今後も継続するとよい。

年度目標：【学びを支える教育環境の充実】

幼稚園の年度目標

- ① 令和6年度の保護者アンケートの次の各項目において肯定的な回答をする割合を80%以上にする。
- ・「子どもは絵本やおはなしに親しむようになりましたか」
 - ・「幼稚園は絵本やおはなしに親しむ環境や指導方法を工夫していますか」

○達成状況の評価は、妥当である。

○保護者と一緒に絵本づくりのワークショップをしたことで、楽しみながら想像力や文字への関心を育むことができた。

3 今後の学校園の運営についての意見

- 今後も、地域と関わりながら、区で1園しかない公立幼稚園として、子育て支援のセンター的役割を果たしてほしい。また、近隣の保育園、小学校との交流を前面に出し、園児獲得につなげられるとよい。